

港湾振興便り



2017. 3

第118号

*:

目 次

*:

1 ポートエッセイ クルーズ船に高まる期待

予算議会でも質問相次ぐー

～日本港湾振興団体連合会会長(新潟市長) 篠田 昭～

2 トピック

●北海道「北極海航路」調査研究会の開催

(北海道 総合政策部 交通政策局 物流港湾室)

●酒田港のコンテナ貨物取扱量が3年連続で過去最高を更新

(山形県 県土整備部 港湾事務所)

●酒田港『ポートオブザイヤー2016』受賞祝賀会を開催

(酒田市 商工観光部 商工港湾課)

●北陸地方整備局「みなとオアシス登録証交付式」を行いました

(北陸地方整備局 港湾空港部 港湾物流企画室)

●みなとオアシス佐渡両津において、「オアシス 2017 春～郷土芸能祭～」が開催されました

(北陸地方整備局 港湾空港部 港湾物流企画室)

●博多港で岸壁延伸工事(ジャケット据付)を報道機関へ公開

～大型クルーズ船の寄港に対応するための岸壁整備を行っています～

(九州地方整備局 博多港湾・空港整備事務所)

*:

1 ポートエッセイ クルーズ船に高まる期待

予算議会でも質問相次ぐー

～日本港湾振興団体連合会会長(新潟市長) 篠田 昭～

*:

いま全国の自治体では新年度の事業実施を決める「予算議会」が開かれている。私の住む新潟市でも今月22日まで市議会2月定例会が開会中だが、地方活性化の切り札として海外からの誘客に対する期待が高く、中でもクルーズ船への関心が強くなっている。各地でのインバウンド盛り上げの参考に、新潟市の2月議会の状況を報告する。

今回の新潟市議会では22人が一般質問に立ったが、そのうち14人が拠点化や交通問題を取り上げていた。これは福祉分野や人口問題に次ぐ多さであり、近年になく港湾などへの関心が高まっていることを実感した。

その中でインバウンド施策の強化を求める質問も多く、その大半はクルーズ船誘致に触れていた。新潟市は市街地にある新潟西港が5万トン級の「飛鳥Ⅱ」までしか入港できず、クルーズ船ブームの中で蚊帳の外に置かれていたが、港湾管理者の新潟県の努力で昨年から新潟東港に大型クルーズ船の入港が可能になった。昨年5月にはコスタ・ビクトリア号が寄港し、約2千人の乗客が新潟観光を楽しんでくれた。

しかし、全国のクルーズ船ブームからみると、まだまだ遅れている状況だ。今年はコスタ・ビクトリア号を超えるレベルのクルーズ船を含め、東港への寄港が2回予定されているとはいえ、金沢港など本州日本海側の港湾と比べても取り組みが遅れている。「金沢から新潟へのルートを早期に確立すべきだ」「日本海のネットワークがまだまだできていない」－これらのことを市議会議員から厳しく指摘された。

先日はこれからのクルーズを考えるシンポジウムを新潟市で開催し、福岡市や山形県酒田市からも港湾関係者に参加いただいた。博多港から、北海道など日本海の北方面にクルーズ航路を伸ばし、新潟や酒田が中継地として活躍できるシナリオを探る試みだ。日本列島を囲む海に、多彩なクルーズ船ルートを充実させ、港湾から地方の元気を牽引したい。

:

2 トピック

:

●北海道「北極海航路」調査研究会の開催

(北海道 総合政策部 交通政策局 物流港湾室)



【研究会の様子】

平成 29 年 2 月 13 日（月）、北海道は『北海道「北極海航路」調査研究会』を札幌市内で開催し、港湾管理者をはじめ、経済界など、道内の関係者約 50 名が参加しました。

本研究会では、国土交通省の担当者や北海道大学の研究者より、北極海航路に関する最新の情報についての講演があり、2016 年シーズンの利用状況や今後の可能性などの説明がありました。

続く話題提供では、昨年 8 月に道内関係者と合同で実施したロシア及びフィンランド調査など北海道の取組について説明し、ロシアでは北極海航路の活用に向け、極東開発に積極的であることなど、現地関係者との意見交換により得られた情報を報告しました。

北海道では、今後も本研究会を定期的に開催し、関係者間の情報共有を図る等、北極海航路の利活用に向けた取組を進めていきます。



【国土交通省担当者の講演】

●酒田港のコンテナ貨物取扱量が 3 年連続で過去最高を更新

(山形県 県土整備部 港湾事務所)

酒田港の平成 28 年のコンテナ貨物取扱量は、輸出が 14,272TEU（前年比 115.6%）、輸入が 9,386TEU（前年比 96.9%）、輸出入合計が 23,658TEU（前年比 107.4%）となり、3 年連続で過去最高を更新しました。

品種別では、輸出では「その他日用品」、「化学薬品」、「製造食品」、「その他製造工業品」が増加し、輸入では「木製品」、「豆類」が増加しました。

コンテナクレーンやリーチスタッカーの増設などの港湾機能の強化や国際定期コンテナ航路の拡充などにより利便性が向上するとともに、官民一体となったポートセールスの展開、花王株式会社酒田工場の生産拡大などが貨物量増加に結び付いたものと考えられます。



【拡張工事が完了した高砂ふ頭コンテナヤード】



【高砂ふ頭にて荷役作業中のコンテナ船】

●酒田港『ポートオブザイヤー2016』受賞祝賀会を開催

（酒田市 商工観光部 商工港湾課）

平成 29 年 2 月 20 日に山形県酒田市において、酒田市、酒田港湾振興会主催による「酒田港『ポート・オブ・ザ・イヤー2016』受賞祝賀会」が開催されました。

祝賀会には、来賓として加藤鮎子 衆議院議員、小谷野喜二 国土交通省東北地方整備局副局長、細谷知行 山形県副知事、新田嘉一 平田牧場グループ会長・庄内開発協議会最高顧問、栢原（かやはら）英郎 元運輸省大臣官房技術総括審議官・元社団法人日本港湾協会をはじめ、庄内地域選出県議会議員、庄内地域の首長・正副議長が出席され、酒田港の慶事を喜びました。

栢原様からは、「大港湾ならずとも、ユニークな活躍で地域を元気にしている港湾がある。それを知れば他の港湾・地域も勇気付けられる。そんな港湾をアピールするために『ポート・オブ・ザ・イヤー』制度がスタートした。日本港湾協会の会長を務めていた頃、この『ポート・オブ・

ザ・イヤー』には、酒田港の姿がモデルにあった。今回の受賞はすばらしいこと、誇りに思っ
てほしい。」とのお言葉をいただきました。

150 人を超える出席者がある中、港湾事業が低調だった時代から活動を継続してこられた港湾関
係者の皆さんの思いを分かち合いながら、この受賞を弾みとして、さらに港町酒田の発展と賑わ
いづくりに取り組んでいくことを確認されていました。



【矢口 明子 酒田市副市長】



【加藤 鮎子 衆議院議員】



【栢原（かやはら） 英郎 氏】
（元運輸省大臣官房技術総括審議官・
元社団法人日本港湾協会会長）



【弦巻 伸 酒田商工会議所会頭】

●北陸地方整備局「みなとオアシス登録証交付式」を行いました

（北陸地方整備局 港湾空港部 港湾物流企画室）

国土交通省港湾局は平成29年2月1日、今まで各地方整備局ごとに定めていた「みなとオア
シス」の運営要綱を一元化し、新たな運営要綱を定め、「みなとオアシス」の新制度をスタート
させました。

新たな運営要綱では先般の港湾法改正で規定された港湾協力団体の積極的な活用を図るほか、
クルーズ旅客の受入、災害支援等もみなとオアシスの機能に位置づけ、代表施設の標章掲示など
広報も強化します。

北陸地方整備局管内全 14 箇所の「みなとオアシス」は、平成 29 年 2 月 16 日付でこの新たな運営要綱に基づく「みなとオアシス」に移行することが認められ、同日付で登録先が北陸地方整備局長から港湾局長に変更されています。

北陸地整港湾空港部は、平成 29 年 3 月 3 日、管内「みなとオアシス」に対し港湾局長に代わり新たな登録証を交付するため、登録証交付式を開催しました。



【みなとオアシス越後岩船】
(村上市 高橋市長)



【みなとオアシス聖籠】
(聖籠町 渡邊町長)



【みなとオアシス新潟】
(新潟市 高野港湾課長)



- みなとオアシス佐渡両津において、「オアシス 2017 春～郷土芸能祭～」が開催されました
(北陸地方整備局 港湾空港部 港湾物流企画室)

平成 29 年 3 月 5 日（日）、みなとオアシス佐渡両津において、「オアシス 2017 春」実行委員会の主催で「オアシス 2017 春～郷土芸能祭～」が開催されました。同イベントは、佐渡の玄関口である佐渡汽船両津港ターミナルを会場に「郷土料理の振る舞い」「郷土芸能披露」が行われ、地元漁協が特産の牡蠣 7000 個を用意。多くの来場者が焼き牡蠣などを次々と買い求め、味わっていました。また、郷土芸能の鬼太鼓を地元小学生が披露し観客席からは盛んに拍手が送られていました。

オープニングセレモニーでは、長田北陸地方整備局次長から三浦佐渡市長へ「みなとオアシス佐渡両津」の新制度に基づく新たな登録証を交付させていただきました。



【多くの来場者で賑わう会場】



【登録証を交付】

●博多港で岸壁延伸工事（ジャケット据付）を報道機関へ公開

～大型クルーズ船の寄港に対応するための岸壁整備を行っています～

（九州地方整備局 博多港湾・空港整備事務所）

平成29年1月19日、博多港中央ふ頭地区で整備を進めている岸壁延伸工事にて、岸壁本体部（ジャケット）の据付状況を報道機関へ公開しました。

近年、クルーズ需要が増加しており、あわせてクルーズ船の大型化も進んでいます。博多港のクルーズ船寄港回数は、平成27年が259回、平成28年が328回を記録し、2年連続で日本一になりました。

しかし、クルーズ船の大型化が進む中で、現在の博多港中央ふ頭地区の岸壁は、13万トン級のクルーズ船までしか対応できていないため、大型クルーズ船の受入に対応できない状況が生じています。

そこで、大型クルーズ船の受入に対応するため、岸壁を延伸する工事を進めており、このたび

延長60mの岸壁本体部（ジャケット）の据付を行ったものです。

その状況を報道機関に公開し、テレビ報道関係4社、新聞報道関係6社と多くの報道機関に取材されました。

取材後は、テレビ、新聞等で大きく取り上げられ、博多港へのクルーズ船の受入に対する市民への関心の大きさが伺えます。

本工事完了後（平成29年4月予定）は、日本に寄港しているクルーズ船としては最大級の「クアンタム・オブ・ザ・シーズ」（16万トン級、全長348m）を中央ふ頭地区の岸壁に受け入れることが可能になります。

更に岸壁を延伸整備する予定であり、全ての整備が完了すると、世界最大級の「オアシス・オブ・ザ・シーズ」（22万トン級、全長362m）の受入が可能となります。

急増するクルーズ船需要に対応するため、引き続き、受入環境の整備を進めてまいります。

【博多港位置図】



【ジャケット据付の様子】

1. 九州地方整備局職員、報道機関関係者等が見守る中、据付作業を開始。



2. ジャケットの据付は、数センチずれても設置できないため、慎重に作業を行い、パソコンの画面で杭とジャケットの据付位置がずれていないかチェックします。



